

## 第7回市民活動ワークショップ 実施報告

<b>開催日時</b>	平成22年7月15日(木) 18:35~21:00
<b>開催場所</b>	武蔵野スイングビル10階 スカイルーム1, 2, 3
<b>参加者構成</b>	市民: 21名(公募) ※申込者29名 アドバイザー: 高山和久(東京ボランティア・市民活動センター統括主任) 事務局: 6名(武蔵野プレイス開設準備室)
<b>次第</b>	開会 1. 報告事項 ・「プレイスニュース」発行について ・ニューズレター第4号発行について 2. 市民活動フロア検討 その⑤「フロアの利用」 ・実行準備会(6月30日実施)の報告 ・グループワーク 3. 事務連絡 閉会
<b>配布資料</b>	資料1 次第 資料2 「プレイスニュース」第1号 資料3 「市民活動フロアを考える市民ワークショップだより」(第4号) 資料4 打ち合わせスペース①(フリースペース)の特徴 資料5 第7回市民ワークショップワークシート①、② 資料6 第8回ワークショップの開催予定について 資料7 第6回市民活動ワークショップ 実施報告 資料8 武蔵野市立武蔵野プレイス条例

## 概要

### 次第1：報告事項

〔内 容〕：実行準備会および事務局からの報告

〔資 料〕：資料2  
資料3

〔概 要〕：

(1) 「プレイスニュース」発行について（事務局より報告）

武蔵野プレイス開設準備室から、施設全般についての準備の現況等を広く市民にお知らせすることを目的として、開館まで「プレイスニュース」を定期的に発行することとなった旨の説明があった。

(2) ニュースレター第4号発行について（編集担当の実行準備会の方より報告）

※「ワークショップ実行準備会」とは、毎回のワークショップの準備作業等を行うことを目的として、ワークショップ参加者中の有志で構成する会。

### 次第2：市民活動フロア検討 その⑤「フロアの利用」

#### ・実行準備会（6月30日実施）の報告

〔内 容〕：実行準備会からの報告および事務局からの説明

〔資 料〕：資料4

〔概 要〕：

(1) ワークショップのまとめ（報告書）の作成について

実行準備会から、まとめ（報告書）の作成について報告。実行準備会を中心に編集を進めること、草案を10月上旬までにワークショップで発表すること等について報告があった。

(2) 7月15日 第7回ワークショップの検討内容・進行方法について

ワークショップ最終回（10回）までに、まとめ（報告書）を作成するということを念頭に置き、第7回では何を話し合うべきかという視点で検討を行った。その結果、第7回は市民活動フロアの具体的な利用ルールについて話し合い、その議論を深める過程で市民活動フロアのミッションやコンセプト等のより深い内容に話をつなげるという方向で進めることになったとの報告があった。

(3) 事務局から、市民活動フロアの特徴について、資料4を利用した説明があった。

・グループワーク

[内 容]:前半はワークシートを使用したグループワーク、後半はディベート的手法を利用したグループワークを実施。

[資 料]:資料5

[概 要]:

(1) 前半のグループワーク

①検討テーマ

実行準備会からの提案により、「市民活動フロアを皆が気持ちよく使うために必要なルールとは？」を検討のテーマとした。

②アクティビティ

(i) 目的:さまざまな人によって利用される市民活動フロアを、皆が気持ち良く使うために、「ルールは必要か」、また、「もし必要であるならば、どのようなルールが必要か」を考えること。

(ii) 方法:4つのグループに分かれ、各グループでワークシートを利用しながら、「市民活動フロアを皆が気持ち良く使うために必要なルールとは？」について意見をまとめた。グループ意見は口頭発表し、コーディネーターがそれをホワイトボードに板書した。

③発表内容の要旨

各グループの発表内容の要旨は次のとおり。

【グループ1】

◆ ルールは必要か？

- ・ 周りに迷惑がかからない程度でルールは必要。

◆ どのようなルールが必要か？

- ・ 来たときよりもきれいにして帰って、皆が気持ちよく使えるように、ごみは持ち帰りにすること。
- ・ お弁当やお茶、お菓子などは、話し合いを円滑にするためには必要なので、禁止しない。
- ・ 多くの人が使えるようにするため、時間の制限や予約制の導入などを検討する。予約は、受付カウンターを必ず通るようにする。
- ・ タバコはだめ。

【グループ2】

◆ ルールは必要か？

- ・ ここは市民活動をするところであるということを共通認識とし、それに応じたルールがあればよい。
- ・ 原則的にルールは最小限にし、あとは利用実態を見ながら臨機応変に対応すれば良い。例えば、勉強をしている人がいても、単なる勉強なのか市民活動の一環なのかは、区別が難しい。利用実態を見ながら柔軟に考えれば良い。

◆ どのようなルールが必要か？

- ・ 飲食についてのルール

「食事目的の利用」はこの場所には相応しくないが、活動をする中で発生する食事は、あっても良い。また、市民活動フロアだけで完結させる必要はなく、プレイスの1階のカフェの存在も視野に

入れながら、ルールを考えればよい。例えば、グループ活動の最中にカフェで食事をするようになったが、仲間の一人が弁当を持参しているような場合、一緒にカフェで弁当を食べられるような配慮があると良い。

### 【グループ3】

#### ◆ ルールは必要か？

- ・必要だが、ルールは少ない方がよい。
- ・ルールを作るとしても、「～してはいけない(禁止、ネガティブ)」ではなく、ポジティブなものあるべき。
- ・何か課題があったら、運営委員会や利用者の協議会などで話し合い、柔軟にルールの修正等が出来ることが望ましい。このような意思決定の仕組みを設けることをルールとすべき。

#### ◆ どのようなルールが必要か？

- ・暴力団・宗教などの団体の利用の禁止。営利行為、募金・署名、破壊など不法行為の禁止。

### 【グループ4】

#### ◆ ルールは必要か？

- ・ルールがないと、利用者が偏るおそれがあるので、ルールは必要。
- ・ルールがないと、自分勝手に、他の利用者に迷惑な使い方をされる恐れがあるため、ルールは必要。

#### ◆ どのようなルールが必要か？

- ・混雑時に利用時間の制限を設けること。
- ・飲み物、お菓子、お弁当の類の飲食は可とする。宴会利用は不可とする。
- ・基本的常識を守ること。(人の迷惑になることは避ける)
- ・使い方の制限や、使う人の制限はしない。

## (2) 後半のグループワーク

### ① 検討テーマ

前半のグループワークでの各グループの発表内容には、「ルールは必要」であるが、それは「必要最小限のルールで良い」という共通の傾向が見られた。前半のテーマをさらに掘り下げて考えるために、後半は、「もし市民活動フロアにルールがなければどうなるか」を検討テーマとした。

### ② アクティビティ

- (i) 目的：ルールについての議論を深める過程で、市民活動フロアのミッションやコンセプトといったより本質的な内容について考えること。
- (ii) 方法：ディベート的な手法を採用し、4つのグループを「ルールはあった方がよい」とする立場と、「ルールはなくてよい」とする立場に分け、グループごとにホワイトボードに板書をして発表した。

### ③ 発表内容の要旨

各グループの発表内容の要旨は次のとおり。

◆ルールがあった方が良くとする立場＝制限を設けることに肯定的な立場

【グループ1】

ルールの例	ルールがあったほうが良い理由
利用を武蔵野市民に限定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民同士が仲良くなれる。</li> <li>・市民にとって使いやすい場所になる。</li> <li>・ホームレスが来ない。</li> <li>・税金が市民のために使われる。</li> </ul>
飲食を禁止する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋が汚れない。</li> <li>・ゴミが出ない。</li> <li>・プレイス周辺の商店街の飲食店が儲かる。</li> </ul>
利用時間に制限を設ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所取りの必要なくなる。</li> <li>・利用者間のトラブルが防げる。</li> </ul>
アルコール、危険物の持ち込を禁止する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酔っ払いにからまれる恐れが無くなる。</li> <li>・利用者の安全が守られる。</li> </ul>

【グループ2】

ルールの例	ルールがあったほうが良い理由
「市民活動」を目的とした利用に限定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動の場が確保される。</li> </ul>
武蔵野市民を優先する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野市民の利益につながる。</li> </ul>

※ある程度のルールがあった方が良く。理由の一つは、運営する側がやりやすいであろうということ、もう一つは、市民が自分たちでルールを検討・見直していく過程で力をつけていくことが期待できるという利点があることがあげられる。

◆ルールは無い方が良くとする立場＝制限を設けることに否定的な立場

【グループ3】

ルールの例	ルールが無い方が良く理由
制限を設ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制限を設けることで、来なくなる人が出る。</li> </ul>
利用を武蔵野市民に限定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が武蔵野市民なのか、外見で判断できない。</li> <li>・「人」の制限は人権侵害。個人の人格に関わるような制限をすべきではない。ただし、利用の目的に関しての制限ならばあっても良い。</li> </ul>
「市民活動」を目的とした利用に限定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動の多様性を制限することにつながる。</li> </ul>

【グループ4】

ルールの例	ルールが無い方が良い理由
利用を武蔵野市民に限定する	・武蔵野市内で市民活動をするのは、必ずしも武蔵野市民に限らない。 ・フロアの目的は、広く他地域の市民活動を紹介したり、学んだりすること。
「市民活動」を目的とした利用に限定する	・高校生、大学生が勉強目的でフロアを利用しながら、市民活動の現場に身近に触れ、市民活動について学ぶきっかけになることが期待できる。
団体での利用を原則とする	・1人で来る人も、将来団体での活動に発展する可能性があり、また活動の場を求めて1人で来る人もいる。

次第4：事務連絡

次回日程：平成22年8月19日（木）18:30～20:30 武蔵野スイングビル10F スカイルーム

閉会

閉会后～ワークショップ実行準備会 打ち合わせ

参加者：市民8名、事務局3名、アドバイザー

内容：① 今後の日程確認

② 「市民活動フロアを考える 市民ワークショップだより」第5号の発行について